

十月総評 立花 開

人間がない眩しいテラリウム

奎いう子 佐賀県

テラリウムは人間が造り出すものだが、その空間に人間は存在しない。不在は眩しい。テラリウムに差しこむ光の、何も通していない汚れのなさは、人が造った空間でのみ許されているという矛盾がある。美しさとは何を通して見ているのか、考えさせられる。

ふくらんだ風船だけが知る微熱

飛和 長野県

しぼんだままの風船には知り得ない、熱い呼気の間。選ばれたようにも見えるが、私はそうは思わない。呼気はやがて熱を失い、ふくらむ前と同じようにしぼんでいき、棄てられる。選ばれる風船には、必ず終わりが訪れる。

肉まんを割って

呼び捨ての屋上

ムクロジ 群馬県

青春に混ざる乱暴さ。ただの乱暴は不快なのに、「この人」と決めた相手からの対応には喜びが滲むのはどうしてか。一番最初に呼び捨てられるときのくすぐったさ。割られた「肉まん」は、きつと主体に渡された方が少し大きい。

ふらここの記憶の髪を切り落とす

檜野 美果子 宮城県

何人もの人間を乗せてきたぶんこ。その記憶が髪の毛によっているとしたら、美しい。風になびきながら行きつ戻りつする髪だけを微睡むように記憶する。もう取り壊されるぶんこだったのだろうか。切り落としたあとの、風だけが残った空間。

ゆっくり泳いで

ゆっくり傷つく

亀の海

寸草 東京都

はやく泳ごうがゆっくりだろうが、傷付くものは傷付くのだ。亀も海も、進みながら、入り込まれながら、傷付いている。この世に身を置いて生きるとはそういうことだ。けれど、痛いのは互いに苦しいから、せめて優しく進みたい。優しさが弱さか、わからないけれど。

月を研ぐ

あなたのための遊園地

石村 まい 兵庫県

言葉、力、思想：暴力には様々な種類がある。「あなたのため」も、暴力である。望んでいないのに、拒否をし続けるのはむずかしい。欲しくもない、楽しくもない遊園地。おそらく対価もそれなりに大きく、苦しさだけが満ちてゆく。

ココア吹くゆっくり深く秋ふかく

深町 明 福岡県

じつくりと時間を味わい、楽しんでいる。「ふ」のリフレインが作品の重心をじつくりと下げ、地に足を着けながらも心は浮遊している、すなわち「生きることを楽しむ」が描かれている。ココアを冷ますために息を吹きかけた先に、秋が、豊かな未来が広がっている。

見るからに心因性のカタツムリ

松下 誠一 東京都

どのような姿が、そう判断させたのだろうか。心因性は、最も可視化されない症状である。嘘か誠かの判断に他者が深く介入できてしまうのだ。いっそ体の表面に出ていればしなくてよい苦しみだが、一目見てわかる、というのもまた新たな苦しみや差別を生むのかもしれない。虫にさえある 孤独。

ひそやかに

首しめられて

柿の色

つきミカン 東京都

首を絞めたとき、顔は赤くならない。すこし黄色がかった、熟れた果物のようになる。けれど、それを経験として知っている人は表立って口にはしない。今日もどこかでは首を絞められる人、絞める人がいる。暴力によって繋がった関係が共有する、密やかな秘密。

窓に体温を吸わせる

陶器になりたい

回る卵 宮城県

冷たい窓にもたれると体温はじわじわと奪われていく。触れたときの冷たさやしつとりとした感覚はなるほど確かに陶器のようである。自発的に窓にもたれて体温をなくし陶器になろうとする姿は、美しい死への渴望にも見える。そんなものはないのだが。